

【音楽Ⅰ】

<学習内容について>

音楽Ⅰは、生涯を通して音楽を愛好するための歌唱の基本と、音楽の基礎について学習します。1年を通して、歌唱、楽典、鑑賞、音楽史の各分野、世界・日本の愛唱歌、音楽の構成、民族音楽などを取り上げます。

<教材について>

教科書：『音楽Ⅰ改訂版 Tutti +』（大修館書店）

学習書：『音楽Ⅰ Tutti + 学習書』（NHK 出版）

<レポートと実技テストについて>

前期3回、後期3回のレポートがあります。

実技テストは、前期1回、後期1回実施します。実技テストについては、毎回レポートの中に情報を公開しますので、必ず確認してください。

[前期]

第1回：楽典①、歌唱、西洋音楽史①

第2回：楽典②、校歌・通教の歌、西洋音楽史②

第3回：楽典③、ドイツ歌曲、西洋音楽史③、オーケストラの楽器、鑑賞

[後期]

第1回：楽典④、器楽、西洋音楽史④、日本歌曲、鑑賞

第2回：楽典⑤、器楽、西洋音楽史⑤、日本歌曲、総合芸術、日本の大衆音楽

第3回：楽典⑥、日本音楽、鑑賞、民族音楽

<学習の進め方について>

レポートは『教科書』『学習書』をよく読めば必ず分かるものになっています。学習範囲を確認しながらこの2冊を有効に活用し、レポート作成を行ってください。また、実技テストに向けて、スクーリング以外にもしっかりと練習に取り組んでください。

<スクーリングについて>

前期・後期それぞれ5時間以上(実技テスト1時間を含む)の受講が必要です。

実技テストに向けた課題の練習なども行いますので、積極的に出席してください。

教科書・学習書は必ず持参し、スクーリングの中で配布された資料も忘れず毎回持参してください。

<評価について>

評価は、試験成績と平常点（レポートの成績、実技成績、学習態度等）を以下の観点をも

とに総合して 100 点法で行い、30 点以上を合格とする。

[知識・技能]

- ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。
- ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。

[思考・技能・表現]

音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。

[主体的に学習に取り組む態度]

主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。